

三重県生活協同組合連合会
創立 50 周年記念誌

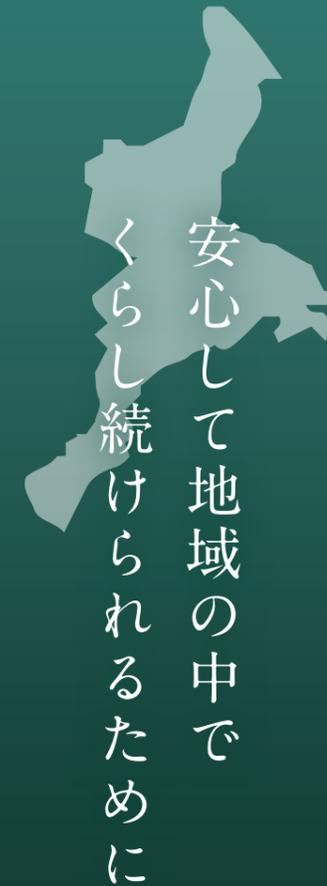


三重県生活協同組合連合会 創立 50 周年記念誌

発行日 2024 年 11 月 8 日

発行 三重県生活協同組合連合会
〒 514-0009 三重県津市羽所町 379 番地 コープみえ本部 1 階

印刷所 株式会社東海共同印刷



50th
ANNIVERSARY

三重県生活協同組合連合会
創立 50 周年記念誌

もくじ

設立趣意書	1
ごあいさつ／三重県生活協同組合連合会 会長理事 茂木 穰	2
設立 50 周年に寄せて	
三重県知事 一見 勝之様	3
日本生活協同組合連合会 代表理事会長 土屋 敏夫様	3
三重県農業協同組合中央会 代表理事会長 谷口 俊二様	4
三重県漁業協同組合連合会 代表理事会長 濱口 慶太様	4
一般社団法人 三重県労働者福祉協議会 理事長 番条 喜芳様	5
三重県中小企業団体中央会 会長 三林 憲忠様	5
生活協同組合とは	6
三重県生活協同組合連合会とは	8
三重県生活協同組合連合会の概況	9
会員生協の紹介	10
三重県生活協同組合連合会 会員生協地図	12
三重県生活協同組合連合会 SDGs アクションプラン	13
三重県生活協同組合連合会と社会情勢の歴史	17
三重県生活協同組合連合会 役付理事歴任表	24



動画
三重県生協連
50周年これまでの歩み

設立趣意書

わたくしたちをとりまく消費生活の情勢は、石油危機に端を発したつくられた品不足、それをもとにした食料品・燃料・紙類・洗剤等あらゆる必需品の価格の高騰と狂乱状況が続いており、国民の生活は根底から破壊されようとしています。

こうしたなかで国民の「くらしと健康を守るとりで」生協に寄せられる期待と信頼はますます大きなものになっていきつつあります。

私たちはこれらの期待と信頼に応えるために、

- (1) 消費者の素朴で切実な諸要求を、国はもちろんのこと、地方行政に強く反映させるために大衆運動を組織し、その要となること。
- (2) 流通の民主化、生活必需物資の安定確保のため、地域社会に対して生協の地位を責任ある確固としたものにする。
- (3) 消費者の防衛組織づくり、協同活動の指導推進の役割りを果たすこと。

を今こそ直ちに実践しなければなりません。

そのためには県内各地の生協のなかまをはじめとして、生協の発展と生協運動への参加を願う多くの人々から、強く要請されていた県生協連合会を早急に結成することが必要であると考えます。

全国的に見ても県生協連合会の作られていない所は極めてわずかになりました。

各県の生協連合会は生協大会、消費者大会、その他インフレをやめさせ物価を安定させる大衆行動、健康保険をはじめ公害等、健康で明るく平和な生活を築くための共同行動、かしい消費者となるため学習活動などの中心になって活動し、消費者の全県的な期待に応えています。

生協運動の原点は協同と連帯にあります。私たちは他府県の実践に学びつつ県内生協が団結し、労金・労働福祉組織・農協・漁協・消費者・婦人団体などとの協力提携関係を深め、一つの大きな環になってつながることを心から願い、県生協連合会結成の趣意といたします。

みなさんの心からの御賛同と御参加を期待いたします。

昭和 49 年 3 月 1 日

三重県生活協同組合連合会
設立発起人会

ごあいさつ



設立50周年にあたって

三重県生活協同組合連合会
会長理事

茂木 穰

三重県生活協同組合連合会は、今年創立 50 周年を迎えることができました。

長年にわたり、ご支援を賜りました三重県をはじめ各行政、県内地域の関係各位、全国の生協の仲間、そして会員生協の役員と組合員の皆様にご感謝申し上げます。

1974 年に、より良い暮らしをめざす 12 の生協が県生協連合会を創立し、現在 7 つの生協でのべ 45 万世帯を越す組織となりました。

この発展は、各生協が地域や職場に生協を広め、組合員や社会の要望に応えることができるようたゆまぬ努力を続けてきたこと、そして事業の幅を広げ、着実にレベルをあげるよう職員力や機能の強化を進めてきたためです。とりわけ 4 つの地域購買生協が合併しコープみえが発足したこと、5 つの医療生協が合併しみえ医療福祉生協が発足したことは、大きな転機になりました。

食の安全安心、環境や平和、災害支援などの社会的役割を発揮し、消費者の暮らしを守る取り組みを進めるなかで、いくつかのトピックスがあります。

- ・三重県ユニセフ協会の設立支援をすすめました。子どもの命と権利を守るため、市民社会組織・多くの企業などと協力し、特徴ある活動をすすめています。この取り組みで新たなつながりが広がりました。
- ・消費者にかかわる諸問題に対応するため、専門家とともに問題解決や消費者市民社会の形成に向けて、消費者市民ネットワークみえが設立されました。その事務局を担い取り組みをすすめています。

・核兵器廃絶と戦争のない平和な社会づくりに向けて、様々な取り組みをすすめ、ハート平和行進では三重県原爆被災者の会や原水爆禁止三重県協議会と協力をして開催しています。

・県内の協同組合の連帯は、国際協同組合年や TPP を契機に、三重県協同組合連絡協議会が発足され、学習会・市民への理解と啓発、環境保全活動など連携した活動をすすめています。

・三重大学と連携して、人文学部特殊講義「協同組合論」が 2016 年より開講し、全国や県内の協同組合から講義をいただき、協同組合への理解を広げています。

これから、大きく社会が変化しようとしています。国連は持続可能な開発目標を定め、誰も取り残されない社会の実現を目指しております。この目標は協同組合の理念と重なり、我々の SDGs 行動宣言と具体化され、活動を進めてきております。

国際協同組合連盟（ICA）は、協同組合のアイデンティティを深める世界的な議論を進めております。これからの我々の協同組合は、持続可能な地域社会に貢献すること、そのためにはさらに多様な人々の参加や多様な組織との連携を広げていくこと、平和を理念に多様性を認めること、自然環境が持続可能となるよう具体的な推進が当会の役割であることを認識し、より一層努力してまいります。

これからの三重県の生協運動を発展させるために、県生協連合会の役割を果たしていく所存です。引き続き皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いします。

設立50周年に寄せて



三重県知事

一見 勝之

三重県生活協同組合連合会が創立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴連合会におかれましては、それぞれの地域や職域で組合員の生活の向上をめざし、各種生協活動に積極的に取り組んでおられますことに、深く敬意を表します。

また、貴連合会として「消費者市民ネットワークみえ」にご参画いただく中「2030 年にむけた SDGs アクションプラン」を策定し、消費者トラブルの未然防止、エシカル消費を推進するとともに、人と人との「支えあい」、「助け合い」の精神のもと、各地で発生した自然災害に際し、積極的にご支援いただいておりますことに感謝を申し上げます。

本県におきましては、県民の皆様の消費生活の安全確保、とりわけ若年層や高齢者の消費者被害防止等に取り組むとともに、人・社会、地域、環境に配慮した消費活動であるエシカル消費の普及啓発にも注力しているところです。これらの取組の実効性をより高くするため、引き続き皆様との連携が重要と考えており、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、設立 50 周年を迎えられる三重県生活協同組合連合会、並びに各加盟生協の、益々のご発展と皆様のご活躍を祈念いたします。



日本生活協同組合連合会

代表理事会長

土屋 敏夫

三重県生活協同組合連合会の創立 50 周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。

創立以来 50 周年に至るまでの皆様のご努力に対し心より敬意を表します。

全国の生協においても、2030 ビジョンの「つながる力」を大切にして地域の皆様と連携・協力しながら、活動や支援に取り組んでいます。

エネルギーや食料品価格の上昇、公共料金の引き上げが続くなかで、消費者・組合員のくらしは一層厳しさを増しています。また、少子高齢化、人口減少、貧困や格差の拡大など、地域社会は複雑で深刻な問題に直面しています。生協の事業経営においても、あらゆるコストが増加し、現場をはじめとする体制の不足など、大変厳しい環境におかれ、また世界の軍事的緊張も一段と高まってきています。

来年 2025 年は、「国際協同組合年」となります。協同組合の価値や地域で果す役割をあらためて広めていく機会でもあります。全国の生協、組合員、地域の皆様と一丸となって、地域社会への貢献を高め、SDGs の取り組みとともに、平和と核兵器廃絶の願いを広げ、さまざまな活動や取り組みを進めてまいりたいと存じます。

会員生協、組合員、お取引先、生産者、地域の諸団体、行政関係の皆様におかれましても、引き続きよりよい地域の未来に向けてますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



三重県農業協同組合中央会
代表理事会長

谷口 俊二

三重県生活協同組合連合会が、設立 50 周年をお迎えになられること、ご同慶の至りであり、心よりお祝い申し上げます。

貴会は、半世紀にわたり、安心して暮らせる地域づくりに努められ、現在、県内約 45 万世帯の組合員で構成され、宅配の購買品や医療・福祉・共済等のサービスを提供するとともに、災害等の支援や教育研修、広報活動にも尽力し、SDGs の実現に向けて、積極的に貢献されていることに深く敬意を表します。

2012 年に、県内の生協・農協・漁協・労福協・中小企業団体中央会等の 14 団体が「三重県協同組合連絡協議会(MJC)」を設立し、協同組合への理解促進活動や協同組合間連携に取り組んでいます。

国連が 2025 年を 2 回目の「国際協同組合年」とする決定を受け、MJC には、学習会やイベントはもとより、貧困や高齢者、子育て、災害の支援、環境調和など、地域課題の解決に向けて、連携を強化し、協同の力で地域を守り、未来を紡ぐ活動に期待が高まっています。

JA グループ三重としても、食と農を基軸として、三重県生協連とともに、産消提携や事業連携の取組みに尽力していく所存です。

三重県生協連が、50 周年を機に、これまで以上に、より良い暮らしと地域を支える事業や活動を先導し邁進されることをご期待し、さらなるご発展を祈念いたします。



三重県漁業協同組合連合会
代表理事会長

濱口 慶太

三重県生活協同組合連合会が、設立 50 周年を迎えられますこと心よりお祝い申し上げます。

この間、大きな時代のうねりに対応しながら、消費者の皆様と力を合わせ様々な事業活動に取り組まれてきたことに改めて敬意を表したいと思います。

私達も同じ協同組合精神のもと、昨今の環境問題や経済情勢に翻弄されながらも、三重県内の漁業者とより良い生活を実現するために活動しており、生活者の暮らし全般を支える事業で幅広い展開を実施されている皆様の活動はその大きな指標となっていると感じております。

また、近年は県内の協同組合組織で構成する三重県協同組合連絡協議会の活動を通じて、地域をより良いものにするためのご意見を聞かせていただく機会も多く、相互連携実現のための羅針盤の役割も果たしていただいていると感じております。

この地域を基盤とした組織として、地域のため、そして人のため、私達も同じ課題を共有しつつ活動していきたいと考えており、今後も連携し、「食」と「漁」の理解を深めるための取組みや、環境保全対策等を通じて、地域社会への貢献を果たしていきたいと思っております。

50 周年を契機として、三重県生活協同組合連合会が更なる発展を遂げられますこと心よりご祈念申し上げます。



一般社団法人 三重県労働者福祉協議会
理事長

番条 喜芳

三重県生活協同組合連合会が創立 50 周年を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。

三重県生協連におかれては、この半世紀にわたり、地域社会の発展とともに歩み、多くの方々の生活を支えてきたことに敬意を表します。

1974 年の創立以来、「安心して暮らせる社会」を目指し、地域の消費者の声を反映し、生活必需品の提供から医療・福祉サービスの充実、環境保護活動まで、多岐にわたる取り組みを行ってこられました。

特に、災害時の支援活動や平和運動への参加は、多くの組合員にとって心強い存在となっております。また、地域の学校や大学との連携を通じて、次世代の育成にも力を注いでこられました。

現在、物価が上昇する状況下で賃金も上がるようになってきましたが、実質賃金はマイナスの状況が続いています。

このような時だからこそ、生活協同組合のより一層の取り組みが必要であり期待されていると思います。

50 周年という節目を迎え、三重県生協連が地域の一員として、より良い未来を築くための活動を続けていくことをご期待申し上げるとともに、新たな一歩を踏み出す生協連のさらなるご発展をご祈念いたします。



三重県中小企業団体中央会
会長

三林 憲忠

三重県生活協同組合連合会が創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

三重県生活協同組合連合会におかれましては、1974 年の創立以来、県内 7 つの消費生活協同組合で構成され、各生活協同組合の事業や活動の連携を推進し、教育研修や広報など幅広い業務を行い、食の安全・安心、消費者被害の防止活動をはじめ、福祉、環境、防災等暮らしを守るさまざまな活動や、行政・地域諸団体との連携強化にご尽力され、県民生活の安定並びに向上に大きく貢献してこられました。

激動する時代環境の中、我々が安心して地域の中で暮らし続けられているのは、茂木会長理事をはじめ歴代の会長理事の力強いリーダーシップのもと、会員・組合員の皆様が英知を結集しご尽力いただいた賜物と敬意を表するところです。

私ども三重県中小企業団体中央会といたしましても、三重県生活協同組合連合会との連携強化を図り、協同組合の社会的・経済的地位の向上を目指すとともに、中小企業連携組織の専門支援機関として、微力ながら、中小企業・小規模事業者の振興発展のために全力を傾注していく所存です。

三重県生活協同組合連合会におかれましても、永きにわたる実績を活かされ、相互扶助の精神のもと、会員・組合員と共に地域に根差した事業活動を通して、県民からさらなる信頼を得て大いに飛躍されますようご期待申し上げるとともに、ますますのご発展と会員・組合員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

生活協同組合とは

協同組合とは

協同組合とは、協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明で、次のように定義されています。

《定義》

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

《価値》

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

《原則》

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 第 1 原則 自発的で開かれた組合員制 | 第 2 原則 組合員による民主的管理 |
| 第 3 原則 組合員の経済的参加 | 第 4 原則 自治と自立 |
| 第 5 原則 教育、訓練および広報 | 第 6 原則 協同組合間協同 |
| 第 7 原則 コミュニティへの関与 | |

協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明より (日本生協連訳)

「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」は、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。

生活協同組合 (生協) のはじまり

世界に先駆けて産業革命が起こったイギリスで、1844 年、自営業者や労働者など 28 人により、「ロッチデール公正開拓者組合」が、設立されました。これが世界で最初に成功を収めた生活協同組合といわれています。

日本の生協の歴史は大正時代にさかのぼります。1921 年に現在の生活協同組合コープこうべの前身となる神戸購買組合と灘購買組合、1926 年に現在の大学生協の前身となる東京学生消費組合、1927 年に東京で江東消費組合などが設立されました。この時、中心となった人物が「生協の父」といわれる賀川豊彦です。戦後、協同組合運動の復興を目指して日本協同組合同盟 (日本生活協同組合連合会の前身) が 1945 年に設立され、賀川豊彦が初代会長に就任しました。

1951 年に日本生活協同組合連合会が生協法 (1948 年制定) に基づき設立され初代会長も務めました。



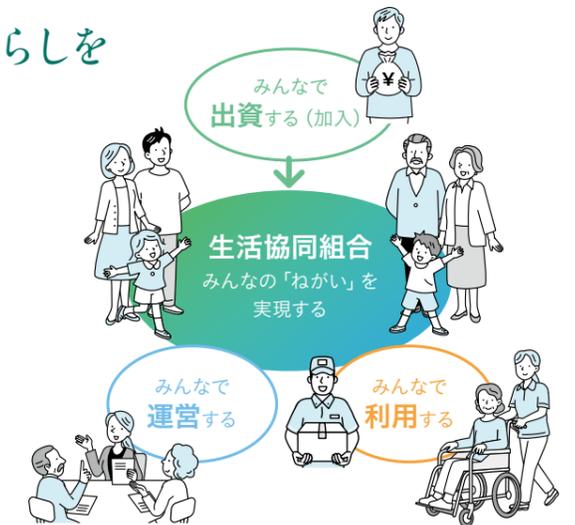
賀川 豊彦 (1888 ~ 1960 年)
社会運動家。労働者や農民の困窮した状態を憂い、救済運動を行いました。1923 年の関東大震災では、直ちに神戸から被災地に入り救済活動を行いました。友愛による協同組合運動の必要性を痛感し、購買や医療生協、共済、信用組合などの創設に尽力しました。

生活協同組合は、消費者がよりよい暮らしを実現するための協同組合です

生活協同組合 (生協) とは、「消費生活協同組合法 (略称: 生協法)」に基づいて設立され、農業協同組合 (農協) や漁業協同組合 (漁協) などと同じ協同組合の一つです。

利用者である消費者が自ら出資して組合員となり、意思決定や運営に参画し、事業・活動を通して暮らしのニーズを実現しています。

略称としてよく使われるコープ (CO・OP) は、協同組合を表す英語のコーペラティブ (co-operative) からきています。生協は営利を目的とせず、人と人の結びつきにより、よりよい暮らしを実現することを目指しています。



全国で、約 3,000 万人が参加する日本最大の消費者組織です

日本全国には、生活に密着したさまざまな分野で活動している約 600 の生協があります。地域生協の世帯加入率は全国で約 39% になります。つまり、日本全国の世帯の 3 分の 1 以上が生協に加入しています。また、すべての生協の組合員数を合計すると約 3,000 万人となります。生協は、日本最大の消費者組織です。

つながる力で
未来をつくる
— CO・OP 2030 —

つながる力で、未来をつくる

1 生涯にわたる心ゆたかな暮らし

私たちは、食を中心に、一人ひとりの暮らしへの役立ちを高め、誰もが生涯を通じて利用できる事業をつくりあげます

2 安心して暮らし続けられる地域社会

私たちは、生活インフラのひとつとして、地域になくはない存在となり、地域のネットワークの一翼を担います

3 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本

私たちは、世界の人々とともに、持続可能で、お互いを認め合う共生社会を実現していきます

4 組合員と生協で働く誰もが生き生きと輝く生協

私たちは、未来へと続く健全な経営と、一人ひとりの組合員と働く誰もが生き生きと輝く生協を実現します

5 より多くの人々がつながる生協

私たちは、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、連帯と活動の基盤を強化します

私たち日本の生協は、組合員のふだんの暮らしを支えるとともに、社会の直面するさまざまな問題に向き合い、協同の力で社会的な役割を果たしてきました。震災復興支援をはじめとした様々な取り組みにより人と人との「つながり」や「たすけあい」が着実に日本社会に根つき広がってきました。

世界は今、気候変動の脅威にさらされており自然災害が増加しています。ロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ・ガザ地区でのイスラエルとハマスによる武力衝突などの絶えない紛争、格差の拡大、飢餓や貧困などの問題を抱えています。日本においても格差と貧困、人口減少、高齢化、地域格差の広がりにより生活インフラの維持が困難になる地域も増えています。

2015 年に国連で持続可能な開発目標 (SDGs) が採択され、日本の生協も「コープ SDGs 行動宣言」(2018 年) で SDGs の実現に貢献することを約束し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをさらに加速させています。また、国連は 2012 年に続き 2025 年を 2 回目の国際協同組合年とすると宣言しました。

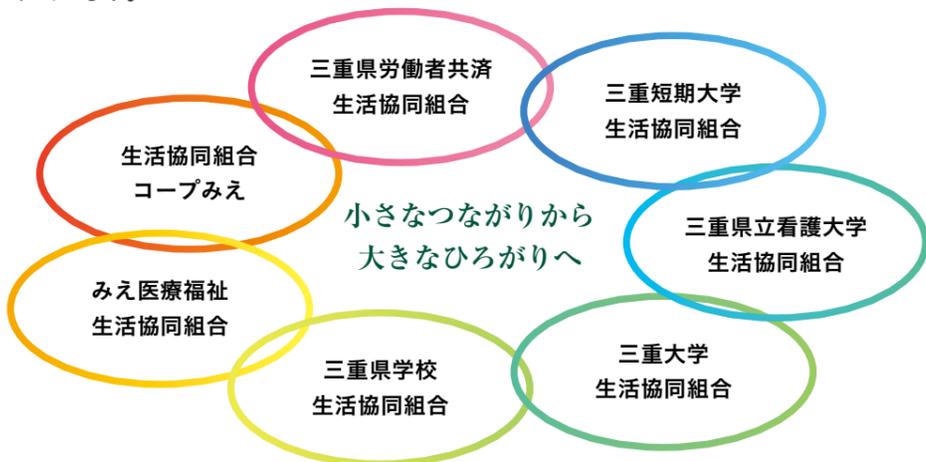
生協は、市民が参加する事業を通じて、暮らしの願いを実現し、社会的な問題解決のために活動し続けてきました。この協同の広がりが、お互いに認め合い、助け合う関係をつむぎ、笑顔あふれる社会を実現していく力になると確信し、協同組合の価値をさらに発揮していきます。

「生涯にわたる心ゆたかな暮らし」、「安心して暮らし続けられる地域社会」と、「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」の実現をめざし、私たちは新たな挑戦を続けます。

三重県生活協同組合連合会とは

三重県生活協同組合連合会は、三重県内の生協が集まって1974年3月25日に設立総会を開催後、1975年4月12日に法人登記されました。

現在、県内で活動する地域・医療・職域・大学・共済の7生協で構成されています。



三重県生活協同組合連合会
ホームページ



設立趣意書

7つの生協の連合会として、会員生協の事業・地域活動の連帯推進や三重県内の関係者との連携をはかりつつ、さまざまな活動をおこなっています。2030年にむけたSDGsアクションプランにかかわりすすめる活動のほか、情勢に応じて専門委員会とプロジェクトチームを設置し、会員生協とともに取り組んでいます。

三重県生活協同組合連合会の活動紹介

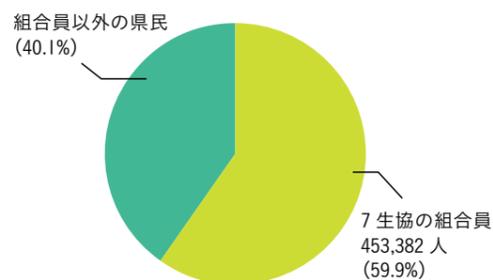
三重県生活協同組合連合会7生協の組合員数は453,382人(2024年3月時点)です。三重県の全世帯数756,377(2024年6月時点)の6割がいずれかの生協に加入しています。(複数の生協への重複加入を含む)



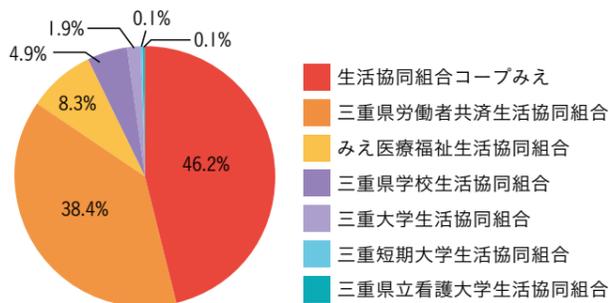
動画

三重県生活協同組合連合会
のご紹介

三重県での生協組合員の構成比



会員生協の組合員構成比



三重県生活協同組合連合会の概況

創立年月日 1974年3月25日
設立年月日 1975年4月12日(登記)

日本生活協同組合連合会 加入年月日:1975年1月13日
三重県協同組合連絡協議会 加入年月日:2012年12月19日
一般社団法人日本協同組合連携機構 加入年月日:2019年5月10日

住 所:〒514-0009 三重県津市羽所町379番地コープみえ本部1階
電 話:059-228-9913
F A X:059-228-9915

役 員

役職名	氏 名	所属生協及び役職
会長理事	茂木 穰	員外
副会長理事	堀尾 茂貴	みえ医療福祉生活協同組合 専務理事
専務理事	鈴木 克彦	生活協同組合コープみえ 専務理事
理事	枝松 かおり	三重県学校生活協同組合 専務理事
理事	竹内 信也	三重大学生活協同組合 専務理事
理事	鈴木 浩	みえ医療福祉生活協同組合 理事長
理事	安村 富子	生活協同組合コープみえ 副理事長
理事	松本 宏一	生活協同組合コープみえ 常務理事
理事	嶋崎 邦彦	三重県労働者共済生活協同組合 専務理事
監事	大川 博	みえ医療福祉生活協同組合 監事
監事	森下 智	生活協同組合コープみえ 常勤監事

県行政等への参加状況(各種審議会、懇話会等)

- 三重県消費生活対策審議会
- 三重県協同農業普及事業外部評価委員会
- 三重県水産業・漁村振興懇話会
- 三重県食の安全・安心確保のための検討会
- 三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画懇話会
- 三重県薬事審議会
- 三重県木材利用推進連絡会
- みえ森と緑の県民税評価委員会
- みえ・くらしのネットワーク

常設の委員会及びプロジェクトチーム

- 食と健康の委員会
- 平和活動委員会
- 協同をすすめる委員会
- 連帯と生協連のあり方検討チーム
- 大規模災害に備えるプロジェクトチーム
- 生協大会実行委員会

会員生協の紹介

三重県生活協同組合連合会には、
県内7つの消費生活協同組合が加入しています。

生活協同組合コープみえ

地域生協は安全・安心な商品を提供するだけでなく、地域の方々とともに、平和・環境・福祉の活動などにも取り組み、だれもがくらしやすい社会をめざした活動をおこなっています。共済・介護・夕食宅配などの事業を展開し、くらし全体を守る生活総合事業をおこなっています。私たちは、「つながりあう安心、笑顔が輝くくらし」の基本理念のもと組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し協力の力で、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献していきます。

所在地：三重県津市羽所町 379 / 電話：059-271-8500 / 事業地域：三重県全域 / 理事長：鈴木 稔彦 / 副理事長：安村 富子 / 専務理事：鈴木 克彦
設立年月日：2003年3月21日 / 組合員数：209,321人 / 出資金額：49億7065万円 / 供給高：230億8379万円



みえ医療福祉生活協同組合

医療福祉生協は、病院や診療所、介護事業などの事業所をもち、組合員を中心に保健・医療・福祉（介護）の事業と活動をすすめています。これらの医療機関・施設では、いつでも安心して受けられる医療・介護サービスを提供しています。また、「地域まるごと健康づくり」「安心して住み続けられるまちづくり」をめざして、組合員活動をすすめています。基本理念「健康で長生きしたい」「安心してかかれる病院・診療所を」。そんな願いがあつまって、医療福祉生協はできています。

所在地：三重県津市津興字柳山 1535-34 / 電話：059-273-6211 / 事業地域：三重県全域 / 理事長：鈴木 浩 / 専務理事：堀尾 茂貴
設立年月日：2011年4月1日 / 組合員数：37,686人 / 出資金額：14億3861万円 / 供給高：38億1601万円



三重県学校生活協同組合

学校生協は、県内の教職員が資金を出し合って「相互扶助の精神により自らの生活向上」を目的に設立された協同組合です。県内の学校や教育関係機関で働くみなさんのライフパートナーとなるべく、安心・安全な食品や生活用品の供給、各種共済・保険などさまざまな事業を行っています。

所在地：三重県津市大里睦合町 2571-2 / 電話：059-230-7730 / 事業地域：三重県の公立幼・小・中・高・特別支援学校等の教職員、退職会員、教育委員会及び教育団体の職域 / 理事長：山門 真 / 専務理事：枝松 かおり / 設立年月日：1957年12月18日 / 組合員数：22,420人
出資金額：2億7490万円 / 供給高：3億2040万円



三重県労働者共済生活協同組合

三重労済生協は、働く人々がつくりあげてきた共済事業団体です。1961年に設立後、1976年には全国統合して「全労済（略称）」となり、さらに2019年6月より、もっと多くの皆さんに親しんでいただき愛される存在となるために、「こくみん共済 coop」となりました。みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくりに取り組んでいます。

所在地：津市栄町 4-259-1 / 電話：059-227-6167 / 事業地域：三重県全域 / 理事長：金森 美智子 / 専務理事：嶋崎 邦彦
設立年月日：1961年6月15日 / 組合員数：174,072人 / 出資金額：10億8796万円 / 供給高：1億2446万円



三重大学生生活協同組合

大学生協は、大学の学生・院生・教員・職員が自分たちの生活を豊かにするために出資金を出し合っている、営利を目的としない生活協同組合です。大学の福利厚生を担い、店舗や食堂を運営しています。

所在地：三重県津市栗真町屋町 1577 番地 / 電話：059-231-1103
事業地域：職域（三重大学） / 理事長：青木 雅生 / 専務理事：竹内 信也
設立年月日：1970年5月27日 / 組合員数：8,704人
出資金額：1億9125万円 / 供給高：10億8153万円



三重短期大学生生活協同組合

所在地：三重県津市一身田中野 181-1 / 電話：059-232-4959
事業地域：職域（三重短期大学）
理事長：南 有哲 / 専務理事：武田 誠一
設立年月日：1988年9月13日
組合員数：657人 / 出資金額：958万円 / 供給高：7876万円

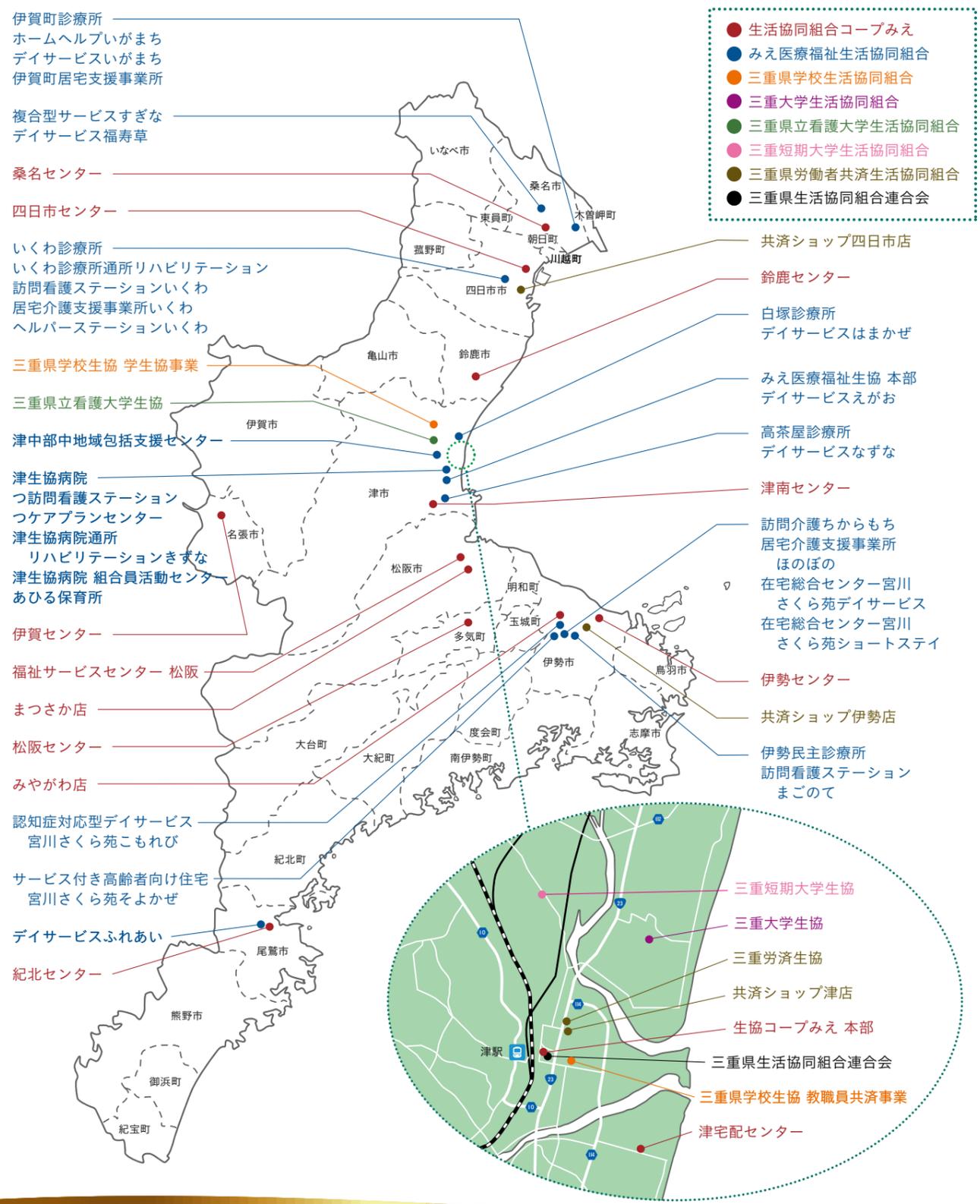


三重県立看護大学生生活協同組合

所在地：三重県津市夢が丘 1-1-1 / 電話：059-236-5010
事業地域：職域（三重県立看護大学）
理事長：安部 彰 / 専務理事：灘波 浩子
設立年月日：2003年8月13日
組合員数：522人 / 出資金額：932万円 / 供給高：7934万円



三重県生活協同組合連合会 会員生協地図



三重県生活協同組合連合会 SDGsアクションプラン

1 2030年に向けたSDGsアクションプラン～5つのP～

SDGs 5つのP	SDGs 17の目標
People (人間) 	目標① 貧困をなくそう 目標② 飢餓をゼロに 目標③ すべての人に健康と福祉を 目標④ 質の高い教育をみんなに 目標⑤ ジェンダー平等を実現しよう 目標⑥ 安全な水とトイレを世界中に
Prosperity (豊かさ) 	目標⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに 目標⑧ 働きがいも経済成長も 目標⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう 目標⑩ 人や国の不平等をなくそう 目標⑪ 住み続けられるまちづくりを
Planet (地球) 	目標⑫ つくる責任 つかう責任 目標⑬ 気候変動に具体的な対策を 目標⑭ 海の豊かさを守ろう 目標⑮ 陸の豊かさを守ろう
Peace (平和) 	目標⑯ 平和と公正をすべての人に
Partnership (パートナーシップ) 	目標⑰ パートナーシップで目標を達成しよう

2 2030年に向けたSDGsアクションプランの取り組み

1 People (人間)

貧しさを解決し、健康でお互いを大切にします。

世界中の人々が幸せになるためには、貧しさや飢えに苦しむ人たちの問題を解決しなければなりません。すべての人が、健康でお互いを大切に、平等に暮らす世界をつくるのが大切です。

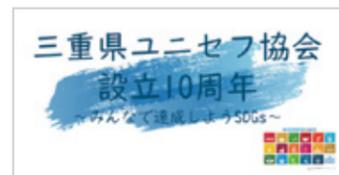
世界のみんが健康で長生きするには、健康を維持し、病気やケガの治療を受けられる様々なサービスが必要です。特に、赤ちゃんや子どもへのケアが必要です。健康に暮らすには、安全な水や衛生的な環境を保つことも重要な課題です。

① 貧しさを解決し、健康でお互いを大切にします。

- 奨学金のあり方を会員生協組合員や教育関係者とともに学びあい、考えあい、運動としての展開も視野に取り組みました。引き続き、奨学金問題に取り組みます。
- 食品ロスの削減に取り組みました。会員生協での食品ロス削減の取り組みや活動に参加する組合員が広がるように応援します。
- 消費税と更なる増税にも反対し、理解と共感を広げました。消費税の問題点を会員生協組合員に広く伝えていく取り組みをすすめます。
- ユニセフ活動を応援しました。引き続き、三重県ユニセフ協会の活動が広がるように応援します。



奨学金問題学習会



三重県ユニセフ協会設立10周年記念事業

② 健康で長生きするには、健康を維持し、

病気やケガの治療を受けられる様々なサービスが必要です。

- 三重県との共催で「食の安全・安心研修会」を継続して開催しています。
- 健康寿命の延伸に向けた口腔ケアの取り組みをすすめました。地域での「オーラルフレイル学習会」の開催や、「保険でより良い歯科医療を」三重連絡会と連携した取り組みをすすめます。
- 社会保障制度のあり方について学び、声をあげました。引き続き、介護保険制度の改定に伴う学びの場を設けます。



オーラルフレイル学習会



介護保険制度について考える学習会

2 Prosperity (豊かさ)

経済的に豊かで、安心して暮らせる世界にしよう。

地球上の誰もが、どこで暮らしていても心身とも豊かに暮らせるには、国や地域の中での格差を減らさなくてはなりません。

世界が経済を成長させていくのと同時に、自然と調和していくことも大切です。再生可能エネルギーをできるだけ活用することや、十分な収入とバランスのとれた働き方、そして安全で住みやすいまちに住めることも、豊かに暮らしていくには大切です。

① 経済的に豊かで、安心して暮らせる世界にしよう。

- 生協間連帯によるフードバンクの支援や、子ども食堂への食材の寄贈をすすめました。
- 暮らしの保障とお金について学ぶ場づくりを会員生協や会員生協どうしの連携で広げました。
- 会員生協が地域で取り組んでいる居場所づくりを、会員生協間で共有できるようにします。

② 世界が経済を成長させていくのと同時に、自然と調和していくことも大切です。

- 地域の生活インフラ維持のためにできることを考えあいました。三重県水道広域化推進プランや、水道事業の民営化に向けた動きが出ないよう三重県や市町自治体の動向に注視し必要な対応を検討します。
- 災害への備えとして、会員生協と共にBCPの策定をすすめました。



これからの年金と介護保険の学習会



水道民営化問題学習会

3 Planet (地球)

自然と共存して、地球の環境を守る。

豊かな自然に恵まれた地球を守ることは、今の時代に生きる私たちの責任です。地球環境を守るためには、ひとつの国や地域だけの努力ではなく、世界全体で取り組まなくてはなりません。

限りある資源を守り、豊かな自然と共に、この先もずっと暮らしていく。絶滅の危機にある動物や植物、自然災害を引き起こす地球温暖化などの気候変動など、様々な問題に関心を向けていくことが大切です。そして、自分たちの暮らしが地球の環境にどう影響しているか、身のまわりから考えていく必要があります。

① 自然と共存して、地球の環境を守る。

- 海洋プラスチックごみが問題となっています。また大量のごみが海岸線に漂着しています。会員生協や他の協同組合と一緒に海岸清掃活動に取り組みました。
- 商品を選ぶとき、品質や価格だけでなく、人や自然のことも目を向けられるようなエシカル消費の考え方を県内で広げました。



三重県内一斉海浜清掃活動

② 限りある資源を守り、豊かな自然と共にこの先もずっと暮らしていく。

- 再生可能エネルギーをつくる・つかう・ひろげる取り組みを推進しました。
- 行政と連携したプラスチックの資源循環、食品ロス削減の国民的な運動、食品リサイクルの取り組み、おむつリサイクルの促進等、ライフサイクル全体での資源循環の取り組みをすすめます。

4 Peace (平和)

争いのない平和を知ることから実現しよう。

世界がずっと平和であり続けてほしい。それはすべての人々の願いです。戦争や原爆により同じ惨禍を二度と繰り返すことのないよう、平和への関心を持つことも、わたしたちにできる世界の平和への一歩になります。

① 争いのない平和を守ることから実現しよう。

- 核兵器禁止条約が発効されるよう被ばく者の方々と共に行動しました。
- ピースアクション in ヒロシマ・オキナワへの参加をすすめました。
- 日本政府へ核兵器禁止条約締約国会議に参加するよう求めていきます。



役職員研修 (沖縄県)



核兵器禁止条約発効記念のつどい

5 Partnership (パートナーシップ)

いろいろな形で、みんなが協力し合う。

SDGsは、地球に住むすべての人たちが「より幸せな未来を手に入れられる」ために、世界が一緒になって様々な問題に取り組むものです。行政や企業、地域、学校、家庭の中で協力していくことで、それが実現します。身近なところから協力の輪を広げて、誰もが幸せになれる未来のために考え行動していきましょう。

① いろいろな形で、みんなが協力しあう。

- みえ医療福祉生協が取り組む大学生の暮らしを支援するフードパントリーに、生協コープみえや三重大学生協、三重県学校生協が連携し支援を続けました。
- 三重県議会に対し、奨学金の返済に関わる負担軽減、消費税の減税、自然災害等における県民の生活再建に向けた保障と支援の必要性を要望しました。
- JA経営企画研究会との共催で、協同組合役職員学習会「協同組合間協同を考える」と、「市民協働によるまちづくりを考える」を開催しました。
- 三重県協同組合連絡協議会(MJC)の活動へ積極的に参加していきます。また、消費者市民ネットワークみえを支援し、会員と連携して「消費者市民」の育成に向けた活動や、消費者被害の未然防止に向けた活動等をすすめます。



みえ医療福祉生協フードパントリー



三重県議会正副議長との懇談



協同組合役職員学習会

三重県生活協同組合連合会と社会情勢の歴史

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
●設立総会 (3/25)	1974年 昭和49年	●日本消費者連盟が発足 ●田中内閣が総辞職
●日本生活協同組合連合会へ加入 ●三重県が設立認可 (3/5) ●法人登記 (4/12) ●伊勢度会医療生協が加入	1975年 昭和50年	●山陽新幹線が全線開通 ●ベトナム戦争が終結 ●第1回世界女性会議 (メキシコ宣言) ●沖縄国際海洋博覧会が開催
●役員研修会を開催 (初回)	1976年 昭和51年	●ロッキード事件 ●訪問販売法が公布
●中央毛織生協が解散、脱退 ●原水禁統一世界会議へ参加	1977年 昭和52年	●原水爆禁止世界大会が14年ぶり統一開催 ●日本赤軍日航機ハイジャック事件
●一般消費税反対学習会を開催 ●一般消費税の新設に反対する三重県連絡会議を結成	1978年 昭和53年	●新東京国際 (成田) 空港が開港 ●第1回国連軍縮特別総会 (SSDI) ●日中平和友好条約調印
●粥見生協が加入 ●三重県の農漁業と自然を考える会が発足 ●灯油値上げ、電力料金値上げ反対運動	1979年 昭和54年	●第2次オイルショック ●スリーマイル島原子力発電所事故 ●ソ連軍がアフガニスタンへ侵攻
●第1回東海地区組合員研修会 (初回) ●原水禁世界大会へ参加 ●くらしと健康を守る政策実現を求める署名とカンパ活動に取り組む	1980年 昭和55年	●国民生活センターが商品テスト・研修施設を開設 ●イラン・イラク戦争が勃発 ●ICA第27回モスクワ大会「西暦2000年における協同組合 (レイドロー報告)」
●みえきた市民生協が加入 ●第1回三重県生協大会 (初回)	1981年 昭和56年	●日米、自動車貿易摩擦 ●日本生協連が厚生年金基金を設立
●第2回国連軍縮特別総会へ三重県代表团として参加 ●食生活の安全を確保するため食品添加物の総量を規制し、消費者本位の食品衛生行政を求める請願書を三重県議会へ提出	1982年 昭和57年	●IOCU「消費者の8つの権利と5つの責任」を提唱、翌年「世界消費者権利の日」を提唱 ●第2回国連軍縮特別総会 (SSDI)
●映画「おこりじぞう」を会員生協で上映 ●県連役員の県外先進生協訪問研修を実施	1983年 昭和58年	●青函トンネルが貫通 ●東京ディズニーランドが開園 ●大韓航空機撃墜事件

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
●三重県民生協が厚生大臣表彰を受賞 ●第1回東海地区家計活動研修会を開催	1984年 昭和59年	●国民生活センターがPIO-NETを開始 ●グリコ・森永事件
●第1回三重県消費者大会に参加 ●生協規制反対署名を国会へ提出 ●三重県生協連設立10周年記念「生協大会」を開催	1985年 昭和60年	●NTT、日本たばこ産業(JT)が発足 ●国連総会で消費者保護ガイドラインを採択 ●労働者派遣法が成立 ●日本航空ジャンボ機墜落事故
●「三重の食を考えるつどい」を農協、漁協、生協で共催 ●大型間接税反対署名を国会へ提出	1986年 昭和61年	●ハレー彗星、76年ぶりに地球へ接近 ●男女雇用機会均等法が施行 ●チェルノブイリ原発事故
●東海地区生協連協議会が結成	1987年 昭和62年	●国鉄の分割・民営化、JRが発足 ●ブラックマンデー(株価大暴落) ●大韓航空機爆破事件
●大東紡織鈴鹿工場生協が解散、脱退 ●三重県での市民平和行進が実現 ●三重県学校生協が厚生大臣表彰を受賞 ●消費税反対の運動に取り組む	1988年 昭和63年	●青函トンネル、瀬戸大橋(坂出一児島)が開通 ●第3回国連軍縮特別総会(SSDIII) ●第29回ICA大会「協同組合の基本的価値」提起
●「消費税の廃止を求める国会請願署名」を国会へ提出 ●第1回税金しらべ	1989年 平成元年	●「平成」と改元 ●消費税(3%)の導入 ●天安門事件 ●ベルリンの壁が崩壊
●COP東海事業連帯準備機構が発足 ●被爆者援護法制定要求 三重ネットワークが結成 ●四日市医療生協が加入	1990年 平成2年	●ゴルバチョフ、ソ連初の大統領就任 ●イラクがクウェートへ侵攻 ●東西ドイツ統一
●平和学習会(湾岸戦争)を開催 ●広報誌「みえの虹」第1号発行	1991年 平成3年	●湾岸戦争が勃発 ●雲仙普賢岳で、大規模大火砕流発生 ●ソビエト連邦解体、ロシア連邦が誕生
●被爆者援護法国会請願署名を日本生協連へ提出 ●消費者が考える日本の農業・三重の農業フォーラムを開催	1992年 平成4年	●PKO協力が成立 ●地球サミット開催「環境と開発に関するリオ宣言」「アジェンダ21」を採択 ●ICA第30回東京大会開催
●むろ医療生協が加入 ●「PL法の制定を求める」請願を県議会へ提出 ●「被爆者援護法制定要求国会署名」を提出	1993年 平成5年	●欧州連合(EU)が正式に設立 ●ウルグアイ・ラウンド受入を正式決定 ●環境基本法が成立

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
●購買生協懇談会を設置 ●核兵器全面禁止、核廃絶国際条約締結を求める請願書を三重県議会へ提出 ●第1回三重県生協まつりを開催	1994年 平成6年	●生活協同組合連合会 東海コープ事業連合が設立 ●製造物責任法(PL法)が制定 ●原爆被爆者援護法が成立
●阪神淡路大震災の被災地支援 ●事務所を移転(乙部ビル) ●粥見生協が解散、脱退	1995年 平成7年	●IOCUがCI(国際消費者機構)に名称変更 ●阪神・淡路大震災が発生 ●東京地下鉄サリン事件 ●ICA創立100周年記念大会
●消費税率の引き上げの閣議決定に抗議し、その撤回を求める要請書を政府へ提出 ●三重県生協連設立20周年記念のつどいを開催	1996年 平成8年	●国際司法裁判所、核兵器の合法性に関する勧告的意見 ●原爆ドームが世界文化遺産に登録
●東長島生協が解散、脱退 ●購買4生協が合併をめざして協議開始	1997年 平成9年	●消費税3%から5%に引き上げ ●介護保険法が成立 ●COP3、京都議定書を採択
●遺伝子組換え食品学習会を開催 ●遺伝子組換え食品の表示義務化と安全性確保を求める意見書を三重県議会へ請願 ●みえきた市民生協と矢野英治氏(三重県生協連会長理事)が厚生大臣表彰を受賞	1998年 平成10年	●明石海峡大橋が開通 ●被災者生活再建支援法が成立 ●地球温暖化対策推進法が成立 ●日本生協連が「全国連帯基金」「生協経営支援機構」を創設
●福祉学習会を開催 ●「原爆犠牲者追悼・被爆体験語り継ぎの集い」を三友会と共催	1999年 平成11年	●対人地雷禁止条約が発効 ●茨城県東海村JCO臨界事故 ●成年後見制度が成立
●食の安全委員会を設置 ●「食品衛生法」改正の署名活動に取り組む ●家計モニター交流会、税金学習会を開催 ●被爆55周年追悼三重の集いへ参加	2000年 平成12年	●容器包装リサイクル法が完全施行 ●消費者契約法、特定商取引法が成立 ●食品リサイクル法が成立 ●雪印集団食中毒事件 ●新紙幣2000円札発行
●MIEみんなで創る環境フェア2001へ参加 ●まると三重ふれあいまつりへ参加	2001年 平成13年	●米国同時多発テロ事件 ●日本初のBSE牛確認、食用牛の全頭検査開始
●災害時における生活必需物資等の調達に関する協定を三重県と締結 ●小林カツ代氏講演会を開催 ●事務所を移転(ハイフジタ1階) ●購買4生協合併契約調印式	2002年 平成14年	●食品の偽装問題が各地で発生 ●中国産輸入ホウレンソウから残留農薬検出 ●住民基本台帳ネットワークシステムが開始 ●北朝鮮が日本人拉致問題を公式に認める

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
<ul style="list-style-type: none"> ●生活協同組合コープみえが発足 ●三重県立看護大学生協が加入 ●災害時における生活必需物資等の調達に関する協定書（改定）を三重県と締結 ●伊勢度会医療生協と丹生久吉氏（生協コープみえ顧問）が厚生労働大臣表彰を受賞 	2003年 平成15年	<ul style="list-style-type: none"> ●北朝鮮が核不拡散条約（NPT）脱退を表明 ●改正食品衛生法、食品安全基本法が成立、食品安全委員会の設置 ●個人情報保護関連5法が成立 ●米国でBSE発生、米国産牛肉を輸入禁止
<ul style="list-style-type: none"> ●「核兵器廃絶国際署名」の取り組み ●台風21号集中豪雨被害への対応 	2004年 平成16年	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上自衛隊イラク派遣開始 ●消費者基本法が成立
<ul style="list-style-type: none"> ●介護のあり方研究会を立ち上げ ●三重県消費者条例改正基本事項に対する意見交換会 	2005年 平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ●京都議定書が発効、政府推奨のクールビズ開始 ●愛知万博が開幕 ●食育基本法、郵政民営化法が成立
<ul style="list-style-type: none"> ●生協法改正学習会を開催 ●渡鹿野消費生協が解散、脱退 ●「震災等大規模災害時における応急生活物資等に関する相互支援協定」を関西地連管内2府10県連で締結 	2006年 平成18年	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険法改正、障害者自立支援法が施行 ●法テラス（日本司法支援センター）設立 ●残留農薬等に関するポジティブリスト制度施行 ●消費者団体訴訟制度が成立 ●厚生省、生協制度見直し検討会を発足
<ul style="list-style-type: none"> ●三重県食品衛生監視指導計画案および農水産物安全確保監視指導計画案についての意見を三重県へ提出（初回） ●改正生協法学習会を開催 	2007年 平成19年	<ul style="list-style-type: none"> ●社会保険庁、年金の記録漏れが発覚 ●改正生協法が成立 ●ミートホープひき肉などの偽装問題が発覚 ●郵政事業民営化の開始
<ul style="list-style-type: none"> ●三重県食の安全・安心の確保に関する条例（骨子案）に対する意見を三重県へ提出 ●「核兵器の攻撃目標の解除と核兵器の廃絶を求める要請書」（CANT署名）を平和首長会議事務局へ提出 ●磯部生協が解散、脱退 ●四日市医療生協と井出法男氏（三重県生協連会長理事）が厚生労働大臣表彰を受賞 	2008年 平成20年	<ul style="list-style-type: none"> ●中国製冷凍餃子事件 ●後期高齢者医療制度の開始 ●三重県食の安全・安心の確保に関する条例を三重県議会が可決 ●事故米（汚染米）の食用転売が発覚 ●リーマン・ショック ●日本コープ共済生活協同組合連合会設立
<ul style="list-style-type: none"> ●NPT再検討会議学習会、食の安全学習会を開催 ●北朝鮮の地下核実験へ抗議声明 ●消費者行政一元化に関する学習会 	2009年 平成21年	<ul style="list-style-type: none"> ●新型インフルエンザ、WHOがパンデミック宣言、国内での感染が広がる ●裁判員制度が施行 ●中国、新疆ウイグル自治区で大規模暴動 ●消費者庁、消費者委員会が発足
<ul style="list-style-type: none"> ●みえ・くらしのネットワーク設立総会へ参加 ●NPT再検討会議へ代表派遣、報告会や学習会を開催 ●三重県5医療生協合併契約書調印式 	2010年 平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ●核不拡散条約（NPT）再検討会議が開催 ●尖閣諸島沖で中国漁船が巡視船と衝突、中国各地で反日デモが相次ぐ ●日本医療福祉生活協同組合連合会設立

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
<ul style="list-style-type: none"> ●平和首長会議未加盟自治体へ加盟要請活動を開始 ●みえ医療福祉生協が発足 ●三重短期大学生協が加入 ●台風12号の支援活動や義援金の取り組み ●T P P 公開セミナーを開催 	2011年 平成23年	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災が発生 ●福島第一原子力発電所事故 ●紀伊半島大水害（台風12号）が発生 ●テレビ放送が地上デジタル放送へ移行
<ul style="list-style-type: none"> ●2012国際協同組合年シンポジウムを開催 ●放射能を考える学習会を開催 ●2012国際協同組合年フェスティバル in みえを開催 ●T P P 参加に反対する取り組みを実施 ●三重県ユニセフ協会を設立 	2012年 平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ●国際協同組合年（IYC） ●国内の稼働原発がすべて運転停止 ●再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）開始 ●消費税増税を柱とする社会保障と税の一体改革関連法が成立
<ul style="list-style-type: none"> ●三重県協同組合連絡協議会（MJC）を設立 ●三重大学生協と茂木穰氏（生協コープみえ理事長）が厚生労働大臣表彰を受賞 	2013年 平成25年	<ul style="list-style-type: none"> ●アベノミクス始動、日銀による異次元緩和で円安株高 ●福島第一原発で汚染水が漏出 ●富士山が世界文化遺産に登録 ●伊勢神宮で式年遷宮の「遷御」が行われる
<ul style="list-style-type: none"> ●「福島の子どもたちを三重にお招きする保養企画」実行委員会を会員生協や大学ボランティアサークルで立ち上げ 	2014年 平成26年	<ul style="list-style-type: none"> ●消費税8%に引き上げ ●集団自衛権認める憲法解釈の変更を閣議決定 ●御嶽山噴火
<ul style="list-style-type: none"> ●NPT再検討会議へ代表派遣 ●安全保障関連法案の成立に反対する署名に取り組む ●事務所をコープみえ本部1階へ移転 	2015年 平成27年	<ul style="list-style-type: none"> ●改正労働者派遣法、安全保障関連法が成立 ●国連が2030アジェンダを採択 ●マイナンバー法が施行 ●COP21でパリ協定が採択
<ul style="list-style-type: none"> ●三重県生協連設立40周年「生協大会」を開催 ●三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」を開講（以降、毎年継続） 	2016年 平成28年	<ul style="list-style-type: none"> ●電力自由化 ●伊勢志摩サミット開催、オバマ大統領が広島訪問 ●「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録
<ul style="list-style-type: none"> ●消費者庁主催「地方消費者フォーラム in 三重」の開催を支援 ●ヒバクシャ国際署名をすすめる三重県民の会を設立 ●三重労済生協が加入 	2017年 平成29年	<ul style="list-style-type: none"> ●共謀罪法が成立 ●国連が核兵器禁止条約を採択、日本は不参加 ●ミャンマーにおけるロヒンギャ難民迫害 ●ICANがノーベル平和賞を受賞

三重県生協連の動き	西暦 / 和暦	社会情勢、政治・経済等の動き
<ul style="list-style-type: none"> ●学習交流会「食のリスクと食生活」を開催 ●消費者市民ネットワークみえ設立 ●コープくらしのフェスタを開催 ●生協コープみえと江上昭治氏（みえ医療福祉生協理事長）が厚生労働大臣表彰を受賞 	2018年 平成30年	<ul style="list-style-type: none"> ●日本協同組合連携機構（JCA）が発足 ●成年年齢引き下げの改正民法が成立 ●働き方改革関連法が成立 ●北海道胆振東部地震が発生、道内大規模停電 ●改正水道法が成立
<ul style="list-style-type: none"> ●日本協同組合連携機構（JCA）へ加入 ●環境の観点から考えるSDGs学習会を開催 ●食の安全・安心研修会を三重県と共催（以降、毎年継続） ●2030SDGsカードゲーム体験学習会を開催 ●台風19号被害緊急支援募金への協力 	2019年 平成31年 令和元年	<ul style="list-style-type: none"> ●東池袋自動車暴走死傷事故。高齢者の運転免許返納の関心が高まる ●皇太子徳仁親王が天皇に即位、「令和」と改元 ●米離脱でINF全廃条約失効 ●消費税10%に増税、軽減税率導入
<ul style="list-style-type: none"> ●「消費税を5%に引き下げをを求める請願署名」に取り組む ●コロナ禍の県内大学生協を応援するため店舗商品の販売会を各会員生協で実施 ●三重県漁業協同組合連合会主催「三重県内一斉海浜清掃活動」へ参加（以降参加） ●食品ロス問題の学習会を開催 	2020年 令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染が世界規模で拡大、緊急事態宣言が発出 ●英国がEU離脱 ●全国でレジ袋有料化スタート ●日中韓、ASEAN加盟国など15カ国が地域的な包括的経済連携（RCEP）協定に署名
<ul style="list-style-type: none"> ●「核兵器禁止条約発効記念のつどい」を開催 ●これからの社会保障を考える学習会、オーラルフレイル予防の学習会、協同組合役職員学習会、奨学金問題学習会を開催 	2021年 令和3年	<ul style="list-style-type: none"> ●核兵器禁止条約が発効 ●新型コロナウイルスワクチン接種開始 ●東京オリンピック、パラリンピック、無観客で開催 ●デジタル庁設置
<ul style="list-style-type: none"> ●ロシアにウクライナ侵攻への抗議文を送付 ●年金問題学習会、水道の民営化問題学習会、海洋プラスチックゴミ問題学習会を開催 ●核兵器の廃絶に向けた学習会を開催 	2022年 令和4年	<ul style="list-style-type: none"> ●ロシアによるウクライナへの軍事侵攻 ●安倍元首相銃撃事件 ●国連が世界人口80億人に達したと発表
<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険問題学習会、協同組合役職員学習会「市民協働によるまちづくり」を開催 ●三重労済生協と鈴木稔彦氏（生協コープみえ理事長）が厚生労働大臣表彰を受賞 ●緊急消防援助隊三重県大隊への協力に対する三重県知事表彰を受賞 	2023年 令和5年	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症が「5類」へ移行 ●LGBT理解増進法が成立 ●福島第一原発の処理水放出開始 ●インボイス制度が開始 ●ハマスがイスラエルに大規模攻撃、イスラエルが報復 ●政治資金パーティー収入の裏金問題が表面化
<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年能登半島地震対応に係る三重県知事消防表彰を受賞 ●三重県生協連創立50周年 	2024年 令和6年	<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年能登半島地震が発生 ●日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞

写真でみるこれまでの活動



1 1992年 三重県原爆被爆者決起集会



2 1993年 立命館大学国際平和ミュージアム見学



3 1994年 第1回三重県生協まつり



4 1996年 三重県生協連設立20周年記念のつどい



5 1996年 市民平和行進



7 2009年 消費者行政一元化に関する学習会



8 2010年 NPT再検討会議ニューヨーク要請行動に代表派遣



9 2014年 福島の子どもたちを三重におおきする保養企画



10 2015年 NPT再検討会議へ代表者派遣



11 2018年 消費者市民ネットワークみえ設立



12 2019年 SDGsカードゲーム体験学習会



13 2020年 三重県漁連主催「県内一斉海浜清掃活動」に参加



14 2021年 緊急消防援助隊三重県大隊への食料等の供給に向けた協定締結式



15 2023年 協同組合役職員学習会「市民協働によるまちづくり」開催

三重県生活協同組合連合会 役付理事歴任表

	1974 年度	1975 年度	1976 年度	1977 年度
会長理事	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)
副会長理事	関口 精一 (津医療生協) 中西 五洲 (三重県民生協) 梅田 隆治 (磯部生協)			
専務理事	山本 勝美 (大東紡生協)	山本 勝美 (大東紡生協)	山本 勝美 (大東紡生協)	山本 勝美 (大東紡生協)
常務理事	米田 克 (三重県学校生協)	米田 克 (三重県学校生協)	米田 克 (三重県学校生協)	米田 克 (三重県学校生協)
	1978 年度	1979 年度	1980 年度	1981 年度
会長理事	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)
副会長理事	関口 精一 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	関口 精一 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	関口 精一 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	松原 美省 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)
専務理事	米田 克 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)
	1982 年度	1983 年度	1984 年度	1985 年度
会長理事	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)	山本 正和 (三重県学校生協)
副会長理事	松原 美省 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	松原 美省 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	井出 法男 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	井出 法男 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)
専務理事	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)
	1986 年度	1987 年度	1988 年度	1989 年度
会長理事	山本 正和 (三重県学校生協)	中西 五洲 (三重県民生協)	中西 五洲 (三重県民生協)	中西 五洲 (三重県民生協)
副会長理事	井出 法男 (津医療生協) 中西 斂 (三重県民生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	井出 法男 (津医療生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	井出 法男 (津医療生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)	井出 法男 (津医療生協) 栗原 亮一 (渡鹿野消費生協)
専務理事	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)
	1990 年度	1991 年度	1992 年度	1993 年度
会長理事	奥山 裕司 (伊勢消費生協)	奥山 裕司 (伊勢消費生協)	奥山 裕司 (伊勢消費生協)	奥山 裕司 (伊勢消費生協)
副会長理事	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)
専務理事	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)

	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度
会長理事	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)
副会長理事	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)
専務理事	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)
	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度
会長理事	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)
副会長理事	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)
専務理事	矢野 英治 (三重県学校生協)	矢野 英治 (三重県学校生協)	羽口 和彦 (員外)	羽口 和彦 (員外)
	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度
会長理事	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)
副会長理事	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	浅井 幸雄 (みやがわ生協)	森 弘幸 (三重県学校生協)	森 弘幸 (三重県学校生協)
専務理事	中西 博人 (三重県民生協)	中西 博人 (生協コープみえ)	中西 博人 (生協コープみえ)	中西 博人 (生協コープみえ)
	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
会長理事	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	井出 法男 (津医療生協)	丹生 久吉 (員外)
専務理事	中西 博人 (員外)	中西 博人 (員外)	中西 博人 (員外)	中西 博人 (員外)
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
会長理事	丹生 久吉 (員外)	丹生 久吉 (員外)	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)
副会長理事	北村 行史 (みえ医療福祉生協)	北村 行史 (みえ医療福祉生協)	北村 行史 (みえ医療福祉生協)	北村 行史 (みえ医療福祉生協)
専務理事	茂木 穰 (生協コープみえ)	茂木 穰 (生協コープみえ)	茂木 穰 (生協コープみえ)	茂木 穰 (生協コープみえ)
	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
会長理事	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)
副会長理事	北村 行史 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)
専務理事	西川 幸城 (生協コープみえ)	西川 幸城 (生協コープみえ)	西川 幸城 (生協コープみえ)	西川 幸城 (生協コープみえ)
	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
会長理事	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)	上野 達彦 (員外)
副会長理事	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)
専務理事	西川 幸城 (生協コープみえ)	西川 幸城 (生協コープみえ)	鈴木 稔彦 (生協コープみえ)	鈴木 稔彦 (生協コープみえ)
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	
会長理事	茂木 穰 (員外)	茂木 穰 (員外)	茂木 穰 (員外)	
副会長理事	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	堀尾 茂貴 (みえ医療福祉生協)	
専務理事	鈴木 稔彦 (生協コープみえ)	鈴木 稔彦 (生協コープみえ)	鈴木 克彦 (生協コープみえ)	